

Marco Gallery

Group Exhibition

「現実のように-As if it were real-」

藤山恵太・tsubura

2025.09.13(Sat)-10.12(Sun)

Marco Gallery 3F



この度 Marco Gallery 3F では藤山恵太・tsubura によるグループ展 「現実のように-As if it were real-」 を開催いたします。

ぜひご高覧ください。



Marco Gallery

【アーティスト】

藤山恵太 / FUJIYAMA KEITA @keitafujiyama

・作家来歴（出生年、学歴、活動拠点）

1992年 東京生まれ

2016年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 卒業

2018年 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻油画 修了



・作家ステートメント

俺は今これを書きながらビールを飲んでいる。

昔はもう少し難しいことを考えながら絵を描いていた。それっぽい何かを基底にして、それっぽい理論で描いていけど、社会人になって死ぬほど働きだしてから、俺の絵にはもっとプリミティブなものが出てきた。

それはアニメの女の子が微笑んで、その手前で犬がタバコを吸ったり、クマがビールを飲んだりしている景色だ。

「これは仕事じゃない

趣味じゃない、習慣じゃない 悲しいけど

俺の人生だ」

と歌ったのは NOFX だけど、安い筆、安い絵の具安いペンキで死にそうになりながら書きぶん殴ったこれが俺の絵なんだ。俺の 120% の出力なんだけど 60% の生きる様を楽しんでくれ。んで、安居酒屋でビールもどきを飲もうぜ。乾杯。



Marco Gallery

・主な展覧会歴（個展、グループ展、アートフェア、受賞歴、その他）

■ 個展

2024年 「The Spaghetti Incident?」 /The blank GALLERY (東京)

2020年 低画質の避暑地 / The blank GALLERY (東京)

2019年 Garage ink / フォルテック一級建築事務所 (東京)

2017年 Damage ink / Monday Art Space (東京)

2016年 Take the power back / デザインフェスタギャラリー (東京)

2015年 Are you kidding me? / レストラントルバドール (神奈川)

■ グループ展

2024年 『散らかしガーデンプレイス/アトリエ・サロン・コウシンキョク (東京)

2024年 『大きい絵』 /新宿眼科画廊 (東京)

2023年 『ミラーステージ』 /Room412 (渋谷)

2023年 『「狗」犬展・狗楽園コラボ展』 /新宿眼科画廊 (東京)

2022年 THE blank GALLERY 10th Anniversary Exhibition "10 YEARS UNPLANNED"/The blank GALLERY (東京)

2022年 はつはる/新宿眼科画廊 (東京)

2021年 BORDER /Room412 (東京)

2021年 PAPER WORKS / The blank GALLERY (東京)

2020年 Reaction / The blank GALLERY (東京)

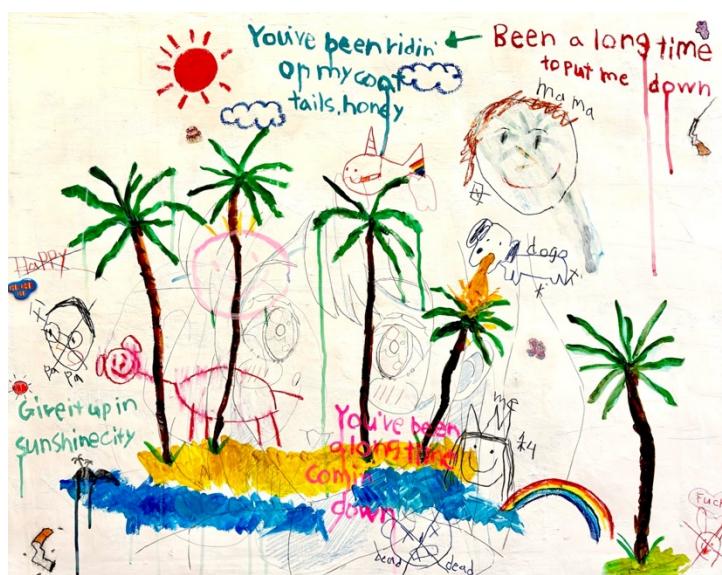
2020年 スピード Lag / gallery TOWED (東京)

2020年 カオス*ラウンジ XI キャラクターオルガナイズ / ゲンロンカオスラウンジ五反田アトリエ (東京)

2019年 説得力のある宣教壇の暴動 / 新宿眼科画廊 (東京)

2018年 Summer group show 2018 / The blank GALLERY (東京)

2018年 gimmick overlap / TURNER GALLERY (東京)



Marco Gallery

【アーティスト】

tsubura @0yen_____

・作家来歴（出生年、学歴、活動拠点）

2002 年福岡県生まれ

2021 年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域入学

2025 年同大学卒業



・作家ステートメント

tsubura は、自身が生まれる前のサブカルチャーおよび 1990 年代から 2000 年代初頭の商業アニメーションやゲームから強い影響を受け、そこからインスピレーションを得て作品を制作している。大学在学中は「ピクセル絵画とキャラクターとの関係性や調和性」について研究を重ね、作品制作を通して独自の表現を追求してきた。

tsubura のキャラクターはすべてオリジナルであり、名前や特定のモデルを持たない。彼らは、tsubura 自身がかつて経験したいじめや人間関係のトラブルなど、「曖昧な記憶」や「思い出したくない記憶」をベースに生み出された存在である。こうした記憶はすでにぼやけており、明確に語ることは難しいが、その“曖昧さ”こそが作品の核となっている。

ピクセルという荒いデジタルの描写は、記憶の解像度の低さや、心に残る不確かな印象を象徴している。キャラクターたちは、まるでアニメのワンシーンのように描かれ、tsubura 自身の人生に登場してきた人物たちの象徴として画面に現れる。

在学中には、映像合成に用いられる「グリーンバック」を絵画に援用した《グリーンバックシリーズ》を発表。緑一色の背景は「背景の欠如」を表現し、鑑賞者に「このキャラクターはどこにいるのか」「どんな状況なのか」といった想像を促す。視覚情報の“欠落”は、記憶の曖昧さとも重なる要素として機能している。

大学卒業後は、キャンバス作品だけでなくドローイング制作も積極的に展開。特に近年では、すでに生産終了となつた既製品カセットテープや MD などを支持体として用いたドローイング作品群を発表している。これは、現代社会における“世代交代”や“時代の移り変わり”に対する感覚から生まれたものである。tsubura は、「モノは進化し、やがて未来へと受け継がれていく」という考え方のもと、過去と現在、そして未来をつなぐような制作を志向している。

また、近年の作品では 1960 年代のモノクロテレビアニメーションに影響を受けたモノクロ描写を取り入れている。

モノクロ表現は tsubura にとって“過去を表す手法”であり、記憶や時代性を視覚的に示唆する重要な要素である。

ZOKEI 展で発表した作品の縮小・再構成版も、モノクロによる新たな解釈が加えられ、記憶と時代の交差点として提示されている。

tsubura の作品は、過去の曖昧な記憶を起点に、ピクセルというデジタル表現を用いながら、常に「場所・時間・人物」との関係性を再構築する試みである。それは同時に、個人史とサブカルチャー、記憶と社会、過去と未来をつなぐビジュアル・アーカイブでもある。



Marco Gallery

・主な展示参加歴

2022年 SUMMER GROUP SHOW (THE blank GALLERY)

2023年 origine (工房親)

OverWhelm (THE blank GALLERY)

2024年 ドローイング展せいめい (JITSUZAISEI)

すっごいグループ展！少女たち（新宿眼科画廊）

NIGHT OUT GALLERY キュレーション展 FACES (アメリカ橋ギャラリー)

2025年 2024年度東京造形大学 ZOKEI 展 (東京造形大学)

第48回東京五美術大学連合卒業・修了制作展 (国立新美術館)

絶対領域みゅーず (新宿眼科画廊)

ドローイング展せいらん (新宿眼科画廊)

受賞歴

2024年度東京造形大学 ZOKEI 展 ZOKEI 賞受賞

イベント参加歴

SHIBUYA 109 40周年記念アートプロジェクト LOVE ART LAB.



Marco Gallery

Group Exhibition “現実のように-As if it were real-”



出展作家：藤山恵太・tsubura

開催日程：2025年9月13日（土）～10月12日（日）

営業時間：13:00-18:00（最終日は17:00まで）

定休日：月・火・祝日 *水曜はアポイント制

会場：Marco Gallery 3F

お問合せ：info@marcoart.gallery

大阪府大阪市中央区南船場 4-12-25 竹本ビル 1F,3F,4F

Takemoto BIDG 1F,3F,4F 4-12-25 Minamisenba Chuo-ku, Osaka City, Osaka, Japan

Tel: +81 06-4708-7915 E-mail: info@marcoart.gallery

